

昭和13年1月1日（土）

風和やかに、切れ切れに団雲あるも、概ね晴れ渡り、暖かにして珍しき日和、三月頃の気温なり。賀状数通到着に対し、返信発送す。道子等太宰府に詣づ。三時頃販り梅ヶ枝餅を求め来る。夕食に頂く。高橋様、手塚様に手紙にて発送す。

昭和13年1月2日（日）

曇り、夜に入り降雨。朝は雨歇みたるも曇天の俛、多少陽の射すこともあり。道子山本先生かかり行きたる序でに、山崎氏に廻らす。ラジオを聴く。久子等と外出する筈なりしも中止せり。

昭和13年1月3日（月）

午後より日の射すことあり。総じて陰鬱の天候なり。デパート此日より開店。皆外出、余留守す。急に昨夜より寒冷を加ひ、今朝屋上雪白し。午後四時近く販宅。玉屋にて福袋三円にて求め来る、此の日。山崎氏、此日来宅の口吻あり。心待ちせしも遂に来たらざりし。午後九時半就寝。

昭和13年1月4日（火）

朝、晴れ勝ちなりしが漸く曇り。此の朝初めて飯を食ふ。十時過ぎ久子とデパートに行く。岩田屋にて醤油2、55、外一升瓶幾らかを併せて3、26銭と覚ゆ。福箱一ヶを貰ふ。松屋にては久子人形を取換ふ。余は久子と別れ玉屋に行き、電燈点滅器93銭、着色電球35銭にて、帰宅の途中山崎氏宅に至る。年始廻りに行きしとて不在。市場に至り、うどん素麺等を求めたり。夜は久子の求め販りし

うどん、そばにて晚餐を済ます。山崎氏三時来宅。一時間話し四時過ぎ飯らる。此日玉屋を出る時、霰（あられ）降りしく。帰途は乗物を用いず。霰は少時にて歇みぬ。夜寒さ、稍衰ふ。山崎氏来られたるも平素と同じく特別の待遇せず。歯刷毛35求む、昨年より高し。

昭和13年1月5日（水）

朝寒気極く激し、日中稍緩む。陽射し少なし。天華魔術来たりし由にて、久子より誘引、五時半より行くことにせり。夕飯も四時四十分には済ます。此の時松永熊雄氏夫妻来る。食事中、少時二階に待たす。二十九日に一度訪ねたるも捜し当たらず、空しく飯り秀夫に聞き、此日再び来れる由。三時間余話し八時を過ぎて飯らる。久子、此の朝林檎を求め来る。鰯二十余尾となる市場より持来る。天華観、自然中止。松永氏の為に那珂河筋まで送りて行く。ラジオを聴き十時寝床。

昭和13年1月6日（木）

風強く、寒気は昨朝程ならざるも可なり寒し。久子より再び天華見に勧めらる。日中行くこととす。然るに生返事をして置きたる為、再応来たりたる際は余り進まざりし為、止めにせよと申遣る。別に悪びれもせず承知呉る。此夜愛国レコード久子求め来る。一円を十銭引きたる由。ビクター持参コロンビアと試験す。其の為、数店との間に往復す。遂にビクターに決す。消防組新年会、三十銭祝儀す。

昭和13年1月7日（金）

朝起きれば屋上雪白し。午前中消えず。「大地」映画見

に行き余留守す。誰か戸を叩くようなるも返事せず。今朝中津より廻送の賀状に対し返事発送、三十枚書く。十時近く投函す。寒威凜冽。道子等は五時帰宅、夕飯の準備にかかり六時済ます。

昭和13年1月8日（土）

寒気強く雪白し。山崎氏より葉書。一燈園にアグレマンを要求せし処、承認あり。来十六日。会長柳原先生の就任披露ある筈、明日の会は延期となれりとあり。此の夜、秀夫来。洋服にて局より直ぐ来れる由。寒さも此の夜半にて減退を見るべしと云ふ。子供等湯に行く筈を中止せり。林檎沒了、久子に拾銭やり求めしむ。それも風呂に行かぬことにより実現せず。

昭和13年1月9日（日）

幾分寒气和らぎたる如くなるも、朝の間冷込み強し。午後より余程緩和す。磯村氏の上海病院へ見舞状と、増田翠子召集に対し手紙出す。湯札所在不明。澄子発見に付き贈与す。余の搜索方、手落ちありしによる。懷炉を使用することとすべく、中津に持行くことにせり。

昭和13年1月10日（月）

寒気多少緩和の兆しを認む。昨夜のうどんを、不足を餅を頂き、七時半仕度、四十分出発。停車場まで徒歩、八時に着。新聞四銭にて求め定時発車。小倉よりは傷病兵多数。先頭一等車連結、之に収容。久子の長襦袢裁縫方、愛子に委嘱の手紙と共に品物携帯す。快晴となる。珍しき天気。午後五時半帰る。朝吹氏局に見ゆ。余の来ること通知されたるらし。

昭和13年1月11日（火）

曇り、寒気強し。水は井より汲みて来る。其の為、余と同時に起きる久子の名義にて、便所を自分等の方を使用方申来る。巖、妙なことを謂ふと思ひしが、澄子の入れ知恵にて、蓄音器が悦子と和ちゃんの泣き声みたような音調を発するとあり。下らぬ悪口を物したるかな。午後三時本局に年頭の挨拶に行き、少時局長室にて咄す。豊島氏に嫁したる長女、猶復帰せずと云ふ。各部を巡りて挨拶し四時過ぎ帰る。九日大貞駅前、真坂、溝部三局合同招待会を筑紫亭に開催。余不出席に対しテーブル掛け及び折り、昨日机上に置かれあり。午後六時帰ると共に松田様に挨拶に行く。

昭和13年1月12日（水）

曇り、朝暖か、八時頃より朔風寒し。九時出勤。第一回年金を受取る。大分局電信課より共通主事に栄転の山口弘氏は、十日午後三時臨局。中村局長より立替金子の礼心として、鯉節三本入り一筥??者をして持参せしめらる、巖に持行く。此夜風呂沸く、入浴。五時半帰宅。うどん食べたり。

昭和13年1月13日（木）

朝風なし。寒気は可なり強し。悦子早く起き巖負う。朝食後、余負うに間もなく眠る。九時巖に遅れて出発す。曇天、殆ど陽照らず。五円貯金払戻す。明日別府行の為なり。

昭和13年1月14日（金）

朝、寒威相当強きも風なし。悦子を負うて外出、九時少し前飯る。此の朝秋元鶴井長臨局、七時三十分の汽車にて出発さる。余は八時五十四分に間に合わず、十一時半下りにて出発す。一時三十分別府着、二時局に至る。新局舎堂々たる構造なり。位置も電車通りにて、海岸にも停車場にも近く、至極便利と認めたり。総出席者四十名に上り、下毛郡よりは新設溝辺、大貞駅前、真坂も特監とは関係なきも臨席しあり。余の臨みたる時は、監察員古川氏の挨拶中。次いで山内係長の講評、局長会長の挨拶、古川氏の各局毎の講評、次いで出席局代表し某局長挨拶。座談会、午後六時酔心亭にて宴会開会6, 30。八時長野豊後町長と会場を辞し、九時四十分終列を待つ間、巖にケフカヘルネテマテ60銭、及び土産50銭求め、午前0時二十分、定時に遅るる三十分帰着。容易に起きず、巖迎えに出たる由。一時寢床。

昭和13年1月15日（土）

朝、陽光射し割合暖かなり。昨夜酒飲み出血す。便所にも出血の模様。朝一時間市内を巡遊、九時過ぎ出発。局にて用向きを済まし午後一時十分退局。駅にて大分待合わず、拾五分程遅れて汽車来着。風あるも割合暖かなり。四時四十分博多着、五時家に着。桑原氏先刻来邸。本日、柳原氏邸集合方申越さる。四時より集まる由。余は夕餉を済まし六時半伺う。山崎、松尾、桑原、福永氏も見ゆ。真の郷会員も五六名参加。島井氏夫妻も後刻来会、七時開会。先生の講話、島井氏述懐、余も駄弁を弄し十時閉会。座談会二三氏居残り十一時に至る。福永氏と飯る。山崎氏猶居残らる。寢床一時。割合暖かに

て天気好し。餡（あん）パン三ヶ貰ひ来る。母の書壺円参拾銭、振替にて柳原氏に送金せしに証書紛失せられしか、受領せられぬ俛なる旨、振替貯金課より通知あり。仍（よ）って現金差上げ置けり。先生には気が附かれぬ有様なりし。

昭和13年1月16日（日）

晴れたり曇ったり、暖かなり。前記金額戻し入れ請求書調製、及び恩給振替預け入れ請求書をも作成。高羽寅次より八日付き四拾二円書留にて到着分の受取内、拾貳円送金及び年金十一日受取分の請求、拾円債券繰上債還通帳転記等、諸手続完了。中尾氏宛に手紙を書く。途中ラジオを聴き、中途にして九時半より寢床。

昭和13年1月17日（月）

快晴。水晶実印所在不明。十一日給与金を受取るべきを既に大分遅れて居るに、此の問題にて搜索せしも不明、大いに当惑せり。午後より簗島局に至り、光友会費係会計九円払戻しを了す。此の日、湯タンポ沸騰した湯の為、噴出隙を作り、臨時バンソウコウを久子が取出し貼付、急場を間に合わせたり。六時二十分出発、安国寺に向かふ。門前に大提灯を吊しあり。福岡光友会の標識あり。星野博士、柳原、桑原氏等見ゆ。山崎氏来たり、本堂にて勤行。次いで設けの席にて、会の組織変更に対し柳原先生より通告あり。此日より先生を会長として、司宰を一任することとなる。献金制を創め、博士の意向からか存外多額の収入あり。3,05円を算す。六ヶ月前納を要することになり、維持会員の制を設けらる。普通会员は会費を要せず、但し献金は此の限りにあらず。余の会計報

告後、先生の講話。桑原氏の感想談にて十時閉会。十一時会計を済まして寝む。

昭和13年1月18日（火）

朝は冷えたるも次第に暖かになり、午後は汗出づ。十時過ぎ久子と市場に行き、序でに光友会会費を貯金す。市場にて鰯二十銭求む。夜は湯煖房修繕に廻り、皆不在。住吉まで出掛け漸く目的を達す。金五銭支払う。夜暖かにて、寝る前珍しく水にて拭身す。

昭和13年1月19日（水）

朝来降雨。温暖にて気持よろし、無風。午後六時風呂に行き髯剃りす。降雨劇し。水野南北の養生訓を見、小食を実行せんと欲す。併し容易ならぬを痛感す。暖かき、ズボン下を穿かざりし。愈々明朝中津に行かんとす。実印は鞆内に蔵されあるを発見せり、安堵せり。

昭和13年1月20日（木）

曇天、道路泥濘。徒歩にて駅まで行く。四十分発八時着、十一時半中津着。此日も暖かにてストーブを使用せず。午後五時帰る。風呂沸き二回入浴す。明日餅搗くとして、石臼及び大釜など準備しあり。第一着に着手するものらし。夜多少降雨、十時寝床。

昭和13年1月21日（金）

朝八時前、既に餅搗き人夫数名来。八時半一斗五升の餅は出来上がる。柿餅半分作る。此日も雨天。割合暖かなり。午後より次第に寒くなる。五時帰る。夜、餅を食す。

昭和13年1月22日（土）

風寒し、時々陽射す。永江氏切手類請求に行く。書類整理を了す。午後一時二十分出発、珍しく定刻出発、定刻着。午後五時帰宅。少時俟ちて夕餉に向かう。鰯テンブラあり。

昭和13年1月23日（日）

朝三時雪白し。甚だ寒く、終日消えず。曇天。鮭造り近所に配り、秀夫にも久、持行く。夜寒き為、早く寢床。ラジオを聴く。久子秀夫宅にて遊びて来る。味噌漬け貰ひたりと云ふ。

昭和13年1月24日（月）

曇り。午後より道子等皆外出、余も後より戸締まりして外出。下鰯町道德科学福岡地方開発事務所に至り、旧会員として申込書を提出。聴講券青券を交付番号1113番、新規申込400を算すと云ふ。二時半帰る。道子等四時過ぎ帰る。余は六時前仕度して出発。湯煖房再破損箇所あり、久子をして修繕に遣わす。六時に出来ると云ふ。余第一公会堂に至るに、猶五六分を剩す。全面の座席に連なる。定刻例により天照皇太神、豊受太神に四拍手一礼して松村卿講壇に上り、第一章より購読説明さる。氏の講演が終わる頃より、会員は陸続として来会。超満員にて更に別室を開放して収容、スピーカーを利用す。午後九時三十分、開始当時と同様太神に礼拝し閉会。午後十時帰宅、十一時寢床。新聞では広池千英氏、道德科学専攻塾次長二十七日福岡市来着。二十八日当市、二月五日久留米市、七日小倉市に公園の由とあり。此夜寒さ割合に甚だしからず。中尾氏に手紙発送せり。寢床が出



来て、窓の板戸が鎖されあり。

昭和13年1月25日（火）

寒風可なり強し。正午近く降雨、少時して歇む。午後五時四十分発、寢床を整備して行く。火鉢の火之用心に付き心配す。足駄を穿いて和傘を持ち行く。三分程前着。下足依頼、傘は別に割符を貰ふ。星野先生、余の肩を叩く。先日の会合の御礼を謂わる。阪途山崎、福永両氏と逢ふ。十時二十分帰宅。

昭和13年1月26日（水）

吹雪。久子より外出、百貨店行きを慫慂す。雪歇まず午後三時頃歇む。寒気強し。下駄穿きにて出発。十五分前到着。下足に預けず新聞紙に入れ風呂敷に包み持居る。此日閉会に先立ち身の上相談、其の他疑問あれば三時頃までに下鰯町事務所に来訪を求められ、九時四十分退出。途中山崎氏等に会し、一緒に住吉橋まで来る。神社前よりバスに乗る。此夜、講義中睡気さし困る。

昭和13年1月27日（木）

朝寒気強し。日中陽射し幾分か暖かし。久子に要求され岩田屋及び玉屋に行く。岩田屋にて飯櫃1、20、篋（へら）20、洋服刷毛70を求めさせらる。二時過ぎバス三区を乗り販る。澄子敷き布団、陽に乾し置けり。途中好天気となり、話が布団を乾かして呉れるとよいがと噂したるもの。再び曇る。高羽富次氏より礼状。永江シズエ氏より今は閑散、心配の要なしと来信あり。夕方より寒さ加わる。本朝火鉢に火種子なく電気座布団を取出したるも、手慄え箸を操作し能わず閉口せり。朝火を移す。五時頃

より快晴。山の端近く層雲を見るのみ。五時四十分出発、例により新柳町まで徒歩。風寒く耳朶痛し。二十分前到着、先頭に列座す。九時半閉会、今夜こそ山崎氏を抜き逸早く帰らんものと駈足にて出発せしに、先方でも今夜こそ自分に追い付くこと能わざるべしと急ぎ足なりしもおかし。十時五分帰れば、何日も滅燈就寝の筈なるに、照々と電燈点火しあり。秀夫が来たり居れるなり。小豆を薄き母衣にて包み、油鍋にて焼きたるキンツバ様のものを土産に持参しあり。道子の問題なりし。良く依頼置けり。十一時寢床。

昭和13年1月28日（金）

曇天。寒気幾分緩みし如し、積雲重畳の姿なり。五時四十五分出発、日没後寒さ漸く烈し。六時十分到着。開会一時間四十分後、広池千英氏の講話あり。定刻閉会。猶、明晩も研究会ありて、一般の聴講参加を希望する旨申出あり。手套片一方遺失せり、会場内とも思わる。小雨降り出でたる為、初発地よりバスに乗らんとせしが、多少時間もあるらしく雨も歇みたる様子故、再び徒歩することとし大急ぎに歩きたるに、途中山崎氏に遇ふ。今夜の講演中、便所掃除など単に塑に扱われたるに対し批難を浴びせ、だから失業問題が起こると警告したる問題に対し、意見を余に聞く。余は似非なる所謂偽装心理に終始する者あらば、論者の主義に同意せざるを得ず。世には売らんが為の主義者不少を認む、余の意見を陳べ置けり。十時十分頃到着。

昭和13年1月29日（土）

朝の間は曇り、九時過ぎより漸く晴れ。春らしき暖かさに

敷き布団等乾かす。北よりの風、終日好晴続く。午後五時五十分出発、十分前到着。下鯪（いわし）町事務所油商北村開会の挨拶、大阪の工業家丸井氏次いで立ち、二時間余実験談あり。親孝行の巻には泪を流させられたり。九時三十分閉会、此日山崎氏等見えず。早く帰宅。秀夫来たり居る、更に二階に上がり色々話す。十二時寢床。割合に暖かなり。火鉢に火がなくなりし如し。

昭和13年1月30日（日）

夜半より降雨、朝より稍小歇みとなる。火鉢に火がなかりしも、其の儘朝食まで持越す。秀夫の話にては、野口主事が余の家を詳細尋ねたそうだ。本日訪ねて来るか知らんと思われし時、橋本昇氏来邸。ラジオの関係者の講習会にて築港附近に泊まり居る由なり。前日一度来たりたるも不明にて、本日二度目に尋ね当てたる由、シルコなど馳走す。余の為に特に造りしものを、恰度来客を機に白玉粉にて急造せしもの。四時過ぎ帰宿。一度曇空は碧空を見しも、間もなく再び曇る。理髪、髯剃る、十時寢床。

昭和13年1月31日（月）

六時半炊事に着手せしむ。六時四十五分、前夜の残りシルコを食し、七時三十五分出発。徒歩、八時駅着。満員、福間にて大部分下車。神詣での人々なりし。快晴。給料交付。中尾氏よりの手紙あり、松木君よりも到着。五時帰れば、例の加入奨励摘発受負者某来宅、夕食を餐したるらし。余の帰宅を推測し居らざるものの如し。尚、両氏よりの手紙は披見するの暇なく持帰る。十時寢床。